

# ときめき人

Tokimeki bito



## 衰えることがない 音楽への情熱 その音色は 時代と世代をつなぐ

南方町・山成

### 白鳥 康彦さん

しらとり・やすひこ  
1946年生まれ 血液型/O型

#### Profile

1976年に結成したニュー・シャーマン楽団代表。全演奏曲の編曲を手掛ける。音楽に興味があり、演奏や編曲などを学んでみたい人は、白鳥さんまでご連絡を。

☎ 0220(58)3214



記念コンサートでの力強く優しい演奏に観客たちは酔いしれる

市内で活躍するアマチュアバンド「ニュー・シャーマン楽団」が、今年結成40周年を迎えた。記念コンサートは6月18日、登米祝祭劇場で開かれ、老若男女を問わず、幅広い年齢層の観客で会場は埋め尽くされた。

楽団を束ねるのは、指揮とテナーサクソを担当する白鳥さん。南方中を卒業後、楽器演奏を愛する仲間とバンドを始めたのがきっかけで、現在は16人編成で活動している。楽団はラテン音楽、ジャズ、演歌など幅広いジャンルを演奏。さまざまなイベントに出演し、地域を盛り上げることに貢献してきた。白鳥さんは「記憶や体力の衰えを感じる年齢になった」と笑う。その言葉とは裏腹に、平均年齢65歳の団員らは、演奏が始まれば

年齢を感じさせないパフォーマンスで、熟練した音色が観客を魅了する。

コンサートでは、白鳥さんがユーモアを交えて進行、客席は笑いの渦に。「お客さんには演奏だけではなく、コンサート全てを楽しんでもらいたい」と細やかな気配りを忘れない。その気配りに応えるように、演奏の合間に団員に花束などが手渡される。ニュー・シャーマンのコンサートは、楽団、客席が一体となってつくられている。

楽団の合言葉は「生活に潤いを、心にオアシスを」。「今まで活動を続けることができたのは、地域の皆さんが支えてくれたおかげ。今後も活動を通じて恩返ししたい」。楽団は、時代と世代をつなぐ居心地のいい音楽を届け続ける。

## 編集後記

▼「一番短かった」。佐沼高ボート部員が、ゴール後につぶやいた一言が忘れられない。最後のレースとなった悔しさや寂しさ、2年半の部活動や仲間への思い。たった10文字に、多くの思いが込められており、胸が熱くなった。四半世紀以上前のあの日を思い出した。(及川)

▼全国大会へ出場した選手の皆さんを取材。全国大会への切符を手にするため、みんな見えないところで努力をしている。基礎トレや食事の面での栄養バランスなど。やはり、目標を高くすればするほど、忍耐力と強い意志が必要。神様は努力した人を見逃さない。(千葉)

▼8月に入り、管区気象台が「東北地方は梅雨明けしたとみられます」と発表。いよいよ暑い夏が来ると構えていたのに、曇りや雨の日が続いて、気分はどんより。久しぶりに晴れた朝はとてすがすがしく、改めて太陽のありがたさを実感した今年の夏。(伊藤)



#### モバイルとめ

(携帯電話版ホームページ)  
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



#### 登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)  
<https://mail.cous.jp/tomecity/>

